

地域課題・目指す将来像

地域課題

- IT産業の下請構造、低い労働生産性、伝統的な雇用体系等による人材流出の負のサイクルがあり、**高度IT人材の首都圏流出が大きな課題**
- 産学金官によるスマートシティ推進と合わせ、地方大学の知見を活かした高付加価値産業を構築し、**高度IT人材が魅力を感じるスタートアップ拠点を形成する必要がある**

将来像

- **東北第2位のIT産業集積の強化**（2030年IT戦略実現：①IT産業売上高3倍、②IT事業所数2倍、③高度IT人材地元定着50%増）
- **高度IT人材が魅力を感じる高付加価値産業の創出**（北東北の人口減少の防波堤構築）

推進体制

名称：盛岡未来技術地域実装協議会
～(別称)マルチモノ盛岡推進協議会～

地方公共団体	盛岡市、岩手県、滝沢市、矢巾町
国（★は現地支援責任者）	★内閣府（地方創生推進事務局）、デジタル庁（国民向けサービスグループ）、警察庁（交通局）、総務省（東北総合通信局）、文部科学省（科学技術・学術政策局）、厚生労働省（東北厚生局）、経済産業省（東北経済産業局）、国土交通省（東北地方整備局）
学術機関等	岩手大学、岩手県立大学、岩手県立産業技術短期大学校、いわて産業振興センター、岩手県工業技術センター
民間事業者	(株)ネクスト、(株)Wakey、湊運輸倉庫(株)、(株)プラスプラス、(株)TOLIMS、manordaいわて(株)、NTT東日本、AP TECH(株)、(株)doors、(株)Chaos Edge、(株)フロムいわて、ジオテクノロジー(株)、白石食品工業(株)、Visnu(株)、イーアールアイ(株) 等

課題解決に向けた取組

(写真：盛岡市提供)

高付加価値産業の創出

【AI、IoT、ドローン、VR/AR、5G、自動運転、キャッシュレス 等】

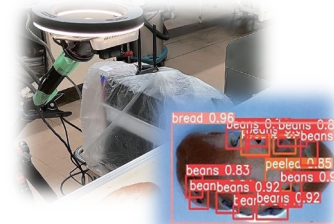
未来技術にチャレンジするプラットフォーム「MULTI MONO MORIOKA（マルチモノ盛岡）」において、未来技術を活用する実証実験が次々と派生される環境を構築し、これらの実証事業の社会実装を目指すことで、産業の発展や社会課題の解決、人材の地元定着を目指す

<R5年度に実施した実証事業>

➤ **AI画像処理**による市道の穴ぼこ箇所の特定事業

➤ **パンAI検品システム**開発事業

- ・ AI画像認識システムによるパン検品と除去装置による不良品除去の自動化



AI検品イメージ

➤ **InQrossカイゼンメーカー**広域版開発の実証実験

- ・ 工場内作業者の位置動作分析システム開発



南部鉄器若手職人がシステムを活用する様子（イメージ）

➤ **南部鉄器熟練職人の思考を再現するAI活用実証事業**

- ・ 熟練技術者の経験と化学的根拠等をデータベース化

<その他、実装を目指す事業（令和4年度以前に実施した実証事業）>

- ドローン×映像解析AIによる橋梁点検の効率化事業
- XR技術活用によるさんさ踊り等伝統文化伝承事業
- デジタル技術を活用したスマートストア事業
- ITを活用した地域医薬連携モデル化事業
- 自動運転EVで城跡を巡る「MorioKart」走行デモ事業
- チャバタケdoorsメタバース事業（メタバースの教育活用事業）
- 通信及びIoT技術を用いたリモートメンテナンス活用による工場内生産工程の改善事業

高付加価値産業の創出（R4年度実証事業：デジタル技術を活用したスマートストア事業【AI】）

取組内容

（写真・図：盛岡市提供）

➤ 【AZLM CONNECTED CAFEmanorda いわて店】オープン（2022年10月26日）

- ・ 「店舗の省人化×ICTによる非接触購買」と「店舗運営の効率化」を図りながら、地域産品及び情報の展示を通じて、ECサイトへの誘導や関係人口創出のPRを行う**新業態店舗（スマートストア）**の実証実験を開始
- ・ 店舗内では、**映像AIサービス**を活用し、入店者の属性分析のほか、商品の視聴率やPOP等の販促効果、来店者が多く滞在したエリアを可視化し、それらを**出店者に還元**することでプロモーションや販促の効果検証につなげる

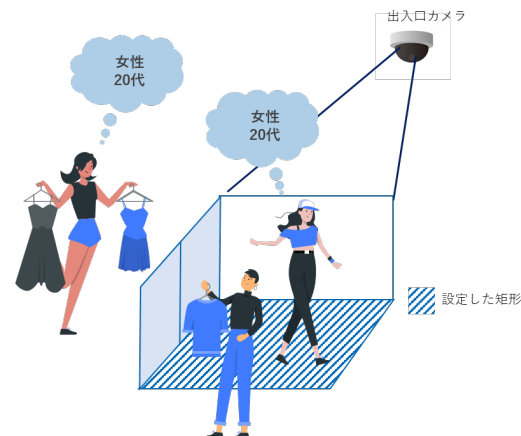
AZLM CONNECTED CAFE manorda いわて店

- ・ 店舗には、地域産品をはじめとした商品が多数陳列
- ・ 来店客は約8,000人（2022年11月累計）

映像AIサービスの活用

- ・ 映像AIサービスを活用して収集したデータは、出店者へ還元
- ・ 商品のプロモーションやマーケティングに活用

【入店者属性分析】



【商品棚滞在時間】



高付加価値産業の創出（R5年度実証事業：AI画像処理による市道の穴ぼこ箇所の特定事業【AI】）

取組内容

(写真：盛岡市提供)

➤ 専用車両による走行調査の実施、及び、AIによる画像処理の実施（2023年8月～）

- AI画像処理による道路の「穴ぼこ」の**自動検出と位置特定**により、**効率的な道路補修**に寄与
- 将来的には、穴ぼこ以外にもひび割れ等の損傷についても**情報を蓄積、分析・予測**することで「穴ぼこ」の**未然防止**による効率的な維持管理を目指す

専用車両による走行調査

- 今回の実証実験で、調査車両が走った総距離は1,300 km（有効距離は盛岡市内の道路20%以上）
- 撮影した画像の枚数は87万枚にのぼる

AIによる画像処理

- 穴ぼこ損傷認識の一次評価では、適合率（※2）91%再現率（※2）94%と高精度な認識を実現。
（※1）穴ぼこ損傷と判断したものが実際に穴ぼこ損傷であった割合
（※2）対象の穴ぼこ損傷をモレなく認識できた割合